

I. 法人の概要

1. 学校法人の沿革

- 昭和 26 年 6 月 愛知県より菊武タイピスト学校（現：菊武ビジネス専門学校）設置認可
- 昭和 28 年 2 月 愛知県より学校法人高木学園（現：菊武学園）設立認可
- 昭和 37 年 4 月 守山女子商業高等学校（現：菊華高等学校）開設
- 昭和 40 年 4 月 名古屋女子商科短期大学（現：名古屋経営短期大学）開設
- 昭和 43 年 4 月 守山女子商業高等学校に通信制課程開設
- 昭和 44 年 4 月 菊武幼稚園開設
- 昭和 63 年 4 月 名古屋女子商科短期大学に経営情報科開設
- 平成 4 年 4 月 守山女子商業高等学校を菊華高等学校と改称し、全日制課程普通科開設。
- 平成 7 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンス開設
- 平成 12 年 4 月 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部開設
- 平成 16 年 4 月 名古屋産業大学大学院前期（修士）課程（環境マネジメント研究科）開設
名古屋産業大学環境情報ビジネス学部に人間環境マネジメント学科増設
- 平成 19 年 4 月 名古屋経営短期大学ビジネス実務学科・人間情報学科の募集を停止し、2 学科を統合した形の総合ビジネス学科を開設。
名古屋産業大学大学院後期（博士）課程（環境マネジメント研究科）開設。
名古屋経営短期大学子ども学科開設。
- 平成 20 年 4 月 名古屋経営短期大学健康福祉学科開設。
- 平成 23 年 4 月 稲葉保育園開設（尾張旭市指定管理事業）
菊華高等学校にスポーツアクトコース開設
- 平成 24 年 4 月 ビジネス教養専門学校エクセレンスの校名を変更
専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院に改称する。
- 平成 26 年 2 月 名古屋経営短期大学総合ビジネス学科の募集を停止し、同学科を継承する形で未来キャリア学科開設の届け出が受理される。

2. 設置する学校の学部、学科および各学校の入学定員、現員数

平成 25 年 4 月 1 日現在

学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
名古屋産業大学大学院	環境マネジメント研究科	前期課程 10 人	20 人	12 人	20 人
	環境マネジメント専攻	後期課程 3 人	9 人	1 人	4 人
名古屋産業大学	環境情報ビジネス学部				
	環境情報ビジネス学科 人間環境マネジメント学科	190 人 募集停止	890 人	103 人	607 人
名古屋経営短期大学	総合ビジネス学科	135 人	270 人	65 人	126 人
	子ども学科	60 人	180 人	39 人	127 人
	健康福祉学科	60 人	120 人	54 人	83 人

学 校 名	学部・学科・課程名等	入学定員	収容定員	入学者数	現員数
菊華高等学校	全日制課程情報ビジネス科	270 人	810 人	77 人	171 人
	全日制課程普通科	90 人	270 人	273 人	661 人
	通信制課程商業科	230 人	690 人	189 人	456 人
菊武幼稚園		69 人	209 人	72 人	209 人
菊武ビジネス専門学校	商業実務専門課程	80 人	80 人	20 人	20 人
	商業実務高等課程	240 人	720 人	189 人	456 人
専門学校名古屋ウェディング &フラワー・ビューティ学院	商業実務専門課程	200 人	360 人	155 人	245 人
	文化教養専門課程	募集停止			
合 計		1,637 人	4,628 人	1,249 人	3,185 人

3. 役員に関する事項

当学園の平成 26 年 3 月 31 日現在の選任区分別理事及び監事は以下のとおりです。

寄附行為の理事定数は 8~11 人、監事定数は 2~3 人で、欠員はありません。

- 1号理事（教職員）：伊藤 雅一、山岸 鳴門、馬淵 正雄
 2号理事（評議員）：井元 明正、渡邊 哲郎
 3号理事（学識経験者）：高木 弘恵、高木 清秀、吉田 雅樹、岡谷 篤一
 山口 淳

監 事：青木 修（常勤）、那須 國広（非常勤）、澤田 忠男（非常勤）

4. 評議員に関する事項

当学園の平成 26 年 3 月 31 日までの選任区分別評議員は以下のとおりです。但し、3号評議員の古橋エツ子氏は、平成 26 年 3 月 31 日をもって任期満了により退任されます。

しかし、寄附行為の評議員定数は、19~24 人で、欠員にはなりません。

- 1号評議員（法人職員）：高木清秀、山口 淳、二宮邦夫、内山哲治
 水野武文、杉村邦彦、神谷 篤、天野雪代
 2号評議員（学園卒業者）：浅井明己、大石清美
 3号評議員（学識経験者）：高木武彦、高木重幸、井元明正、池田英二、竹内隆史 平本晴康
 渡邊哲郎、高木秀典、高木弘恵、原田隆史、大嶋啓介
 市橋 豊、杉山寿美、古橋エツ子

5. 教職員・その他に関する事項

現在、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院校長の稲葉寿美氏が、平成 26 年 3 月 31 日をもって校長職を辞するに伴い、後任として同専門学校副校長の中川信子氏が平成 26 年 4 月 1 日付けで新校長に就任する予定です。

評議員の選任決議済みの変更は、以下のとおりです。

3号評議員 古橋エツ子氏が、平成 26 年 3 月 31 日をもって任期満了で辞任されることに伴い、後任として平成 26 年 4 月 1 日付けで専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院校長に就任予定の中川信子氏が選任されています。

II. 事業の概要

1. 平成 25 年度の入学者数

平成 25 年度の入学者数は、大学は大学院も含めて 70 名の減、短大では 22 名の増、高校（全日制・通信制）で 37 名増、幼稚園は増減なし、菊武ビジネス専門学校は 9 名の減、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院は 55 名増で学園全体の入学者数としては、35 名の増となりました。

平成 25 年度の在籍者数は、大学は卒業生数が入学者数を上回り在学生数で 80 名の減、短大で 5 名の増、高校（全日制・通信制）で 111 名の増、幼稚園は 1 名の減、菊武ビジネス専門学校で 6 名の減、専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院で 43 名の増となり、学園全体の在学生総数は前年度より 72 名多い 3,185 名となりました。

2. 平成 25 年度のその他の事業概要

【学園本部】

25 年度も 4 月「各部門の新年度の重点取組み」、6 月には名産大ボウリング部員 3 名が参加しての「ボウリング大会」、9 月「営業力UP」の講演会とグループ実践ワーク、1 月「学生・生徒の個人情報扱う注意」の講演と「餅つき大会」、3 月「教職員の表彰と懇親会」と計 5 回の学園研修を実施し、8 月には、メインイベントである「菊武夏まつり」を実施しました。

【名古屋産業大学】

大学では、26 年度より正式スタートするビジネス・トレーニングプログラムの中心となる長期・短期インターンシップの提携先国内企業・団体及び海外企業・団体の開拓など教育環境の整備に取り組みました。この結果、国内では㈱東横イン、㈱ラックランドなど 32 の企業・団体と、海外ではH I S ゴールドコースト（オーストラリア）、KYB工業（中国）、兆品ホテル（台湾）などの企業と提携することが出来ました。更に、建学の精神に基づく実践教育の充実に向けては、文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・体制整備事業」「エコキャンパス推進事業」や総務省の「域学連携」実践拠点形成モデル実証事業の採択を受け、教育の質的向上とこれを支える教育環境の整備に取り組みました。

課外活動の面では、ボウリング部男子チームは全日本大学ボウリング選手権で 2 年連続 3 度目の日本一に輝きました。そのチームの一員であった吉田健太選手は 25 年度ナショナルチームの選手に選ばれ、9 月のアジアユース選手権で日本代表として戦い、4 人チーム戦で優勝、総合で 3 位に入る大活躍をしました。また、ウェイトリフティング部 OB の坂典泰さん（四日市工業高校講師）は、世界選手権の日本代表に選ばれました。更に、創部 4 年目のサッカー部が愛知県リーグで初優勝と大活躍し、東海リーグ 2 部の入れ替え戦に出場しました。スケート部の杉山侑大選手も 12 月に西日本スピードスケート競技会 5,000m で 2 位になり、1 月の国体に出場しました。2 月にはボウリング部の越後拓真選手が全日本大学個人ボウリング選手権大会で優勝、日本一に輝きました。

【名古屋経営短期大学】

短大では、4月に春日井市少年自然の家で10年ぶりに新入生オリエンテーション合宿を行い、総合ビジネス、子ども、健康福祉の3学科の学生がレクレーションなどを通じ学科の枠を飛び越えて交流し親睦を深めました。

5月には、短大では初となる高大連携推進協力協定を誠信高等学校（愛知県扶桑町）と締結しました。6月には、稲葉保育園の園児と子ども学科の2年生40名が一緒になって七夕飾りを作って交流しました。9月にはネパールから総合ビジネス学科に留学している学生2名が、カナダ人講師とともに稲葉保育園を訪問し、民族衣装に着替えて外国語の言葉遊びなどで交流しました。10月には、稲葉保育園児と子ども学科1年生がハロウィンの交流を楽しみ、手作りのカボチャのペンダントやお菓子をプレゼントされた園児達は大喜びでした。12月には地元の親子を招いたクリスマス会が文化センターで開かれ、子ども学科の学生30人と地元の児童館に通う親子230人が参加しました。

25年度も「資格・検定」を取得することにより就職などでよい効果を上げることを期待し、総合ビジネス学科・子ども学科・健康福祉学科の選択科目を相互に履修できるカリキュラムを実施し、3学科共就職率100%を達成しました。

【菊華高等学校】

25年度は、50年を超える歴史と実績を踏まえ、さらなる飛躍をするため「活気ある学校・元気な学校」を目指して、3年目となるスポーツアクトコースのより一層の周知を図り募集活動に力を注ぐとともに、生徒と保護者に絶賛してもらえる教育を実現すべく学校全体の学力向上を目指し、授業改革と教員の授業力向上に力を入れ、各教科を中心に生徒に対しわかる授業、興味を持つ授業に取り組みました。また、普通科スポーツアクトコースを魅力あるコースにするため、スポーツヒルズを大いに活用し、担当教員だけでなく教職員が一致団結してその運営に取り組みました。その他、特に「いじめ問題」については誤った対応を取らないよう細心の注意を払った生徒指導に心掛け、対応した内容など経過がわかる資料作りと教員間の連携を密にする体制作りに取り組みました。

課外活動の面では、5月ソフトボール部が県大会でベスト8に入り、女子ソフトテニス部2年生ペアが2年連続県大会出場を決めました。8月には「菊武夏祭り」に合わせて「中学生将棋大会」を開催大勢の参加を得ました。9月にはサッカー部が2部で優勝、野球部が県大会ベスト8陸上部、ソフトテニス部、ソフトボール部が秋の県大会に出場するなど多くのクラブが活躍しました。12月にはSKEのメンバーである4名の生徒がNHK紅白歌合戦に出演しました。1月にはスケート部の鈴木花歩選手がインターハイに続き国体し出場しました。2月には箏曲部が陸上自衛隊音楽祭り合同演奏に参加しました。

【菊武ビジネス専門学校】

創立65周年の節目の年度でもあるため、「安心・安全・笑顔」の学校づくりと入学者確保に全教職員一致団結して全力投球で渉外活動に臨む体制づくりに取り組みました。

25年度も引き続き3級以上の検定合格（資格取得）に力を注ぎ、多数の合格実績を上げました。

5月には例年のごとく1年生オリエンテーション合宿、2年生校外学習（長島スパランド）、3年生校外学習（鈴鹿サーキット）を実施しました。6月には台湾姉妹校 育達学園 の王先生来校、3年生への講演で、国際感覚の高揚と楽しい国際交流が図られました。7月には1号館4階女子トイレを男子用に改装し洋式化。ウィル愛知大ホールで映画鑑賞会を実施しました。8月につぼんど真ん中祭りと菊武夏祭りで教員・生徒約80名が演舞をしました。10月には、専門学校新聞社主催「私の仕事」作文コンクールで、今年度も団体優秀賞を受賞しました。

課外活動の面では、12月全国専門学校卓球選手権大会に山本竜也選手と岡本俊哉選手が出場し、山本竜也選手が男子シングルスで準優勝に輝きました。1月名古屋市で開かれた「私学商業実務競技大会」で6名の選抜チームがワープロ部門で準優勝に輝きました。

【専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院】

25年度も、①学生募集の有利化を図るための早期内定（数値目標：100%）に導く就職指導、②「美・食・健康」業界へのアプローチと「企業間連携」の仕組みの構築、③学科別職場実習先の確保、④学科に即したアルバイト先の確保と支援、⑤「講師会」による就職先の確保及び就職活動の支援、⑥新規求人開拓及び本校支援企業への訪問活動 に取り組みました。

4月に名古屋市中区オアシス21で開かれた「本」と「花」を贈り合うサン・ジョルディの日を記念したイベントで、フラワービジネス科とブライダルビジネス科の学生が、フラワーアレンジメント教室や模擬結婚式を開催しました。1年生向け「業界セミナー」として6月に「結婚式場」のセミナーと「ヘアメイク」のセミナーを実施しました。7月に、トータルビューティ科の1日エステサロン、8月には、ブライダル科の学生にウェディングの実践を学ばせる「模擬結婚式」、全国フラワーコンテスト高校生大会を実施、11月には本物の結婚式を学生たちがプロデュース、2月には、卒業作品展が名古屋市栄のナディアパークで開かれ、ブライダルビジネス科、トータルビューティ科はドレスに合うヘアメイクとボディーアートに挑戦、フラワービジネス科は、何千何百の葉っぱを使ったグループ作品の展示の他、ブーケ製作などのショーを見てもらいました。

【菊武幼稚園】

5月年長組の園児の作品を春日井市教育委員会主催ワイワイカーニバルで展示、6月避難訓練・地震体験車（グラッキー）体験、7月ふれあい七夕まつり実施、11月に幼年消防クラブの発表、12月に生活発表会を開催、1月新年子ども会（もちつき）を実施、2月「ふれあい参観」を実施し、園児たちが講堂や教室に開店した遊園地、お菓子屋が大賑わいでした。3月ひなまつりの集いを実施しました。

【稲葉保育園】

25年度も園児達の「ふれあい球遊び」と「お花で遊ぼう」をほぼ毎月実施、5月子どもの日を祝う会、緑のカーテン種まき、6月短大子ども学科2年生と七夕制作交流、8月蝉とり、10月に芋掘りし、11月に焼き芋パーティー、1月には、地元のお年寄りの指導で凧作りをし、冬の晴れ空に揚げて楽しみました。

3. 平成 25 年度の主な契約

- 学 園 本 部：自家用電気工作物の保安全管理業務委託契約
 名古屋産業大学：マイクロソフト・スクールアグリーメント購入契約、
 海外インターンシッププログラム開発委託契約、
 PBL ルーム用機器購入契約、風力発電装置開発・製造・設置工事契約
 ネットワークシステム他電子機器リース契約
 名古屋経営短大：コピー機保守サービス契約
 菊 華 高等学校：情報処理室回収工事契約、北館防水・間仕切り工事契約
 卓球棟改修工事契約、生徒管理システムリース契約、
 PC 設備一式レンタル契約、
 菊 武 ビジネス：PC リース契約、校用車リース契約、1 号館 4F トイレ改修工事契約
 N W F B：校用車リース契約、校舎外壁修繕工事契約、

Ⅲ. 財務の概要

1. 経年比較

当年度の決算について、前年度決算と比較しながら若干の説明を付してその概況をご報告いたします。なお、金額は千円未満を四捨五入して示しています。

(1) 資金収支計算書

(資金収入の部)

(単位：千円)

科 目	24 年度決算	25 年度決算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,814,958	1,780,384	△34,574
手数料収入	27,363	28,016	653
寄付金収入	9,514	16,163	6,649
補助金収入	792,587	676,802	△115,785
資産運用収入	10,463	12,608	2,145
資産売却収入	410,000	49,350	△360,650
事業収入	29,543	39,853	10,310
雑収入	51,671	112,141	60,470
借入金等収入	46,812	0	△46,812
前受金収入	433,995	433,552	△443
その他の収入	574,130	359,957	△214,173
資金収入調整勘定	△647,293	△581,025	66,268
当年度資金収入合計	3,553,743	2,927,801	△625,942
前年度繰越支払資金	802,935	1,146,826	343,891
収入の部合計	4,356,678	4,074,627	△282,051

学園全体の在籍者数は増えましたが、単価の高い大学で大幅に在籍者数を減らしたため減少。

国庫補助金は大学で在籍者数が減り、収容定員充足率が下がったため減少、昨年あった高校の耐震化補助金もなくなり大幅減少。地方公共団体補助金は高校の耐震化補助金はなくなったが大学・短大以外での在籍者増加で微減。

短大健康福祉学科で受入れの職業訓練生の数が増え受託事業収入が大きく増加しました。

高校耐震化工事に伴う愛知県私学振興事業財団からの施設設備整備費借入がなくなり減少。

(資金支出の部)

(単位：千円)

科 目	24 年度決算	25 年度決算	差 異
人件費支出	1,625,188	1,730,213	105,025
教育研究費支出	519,473	524,150	4,677
管理経費支出	208,090	192,885	△15,205
借入金等利息支出	5,400	4,530	△870
借入金等返済支出	203,329	184,761	△18,568
施設関係支出	346,897	16,049	△330,848
設備関係支出	42,380	73,676	31,296
資産運用支出	160,788	100,911	△59,877
その他の支出	184,994	118,082	△66,912
資金支出調整勘定	△86,688	△232,245	△145,557
当年度資金支出合計	3,209,851	2,713,012	△496,839
次年度繰越支払資金	1,146,827	1,361,615	214,788
支出の部合計	4,356,678	4,074,627	△282,051

大学における留学生比率が低下したため奨学金が減少したが、NWF Bの大型修繕工事があつて増加。

補助金返還金支出 10 百万円減、その他は経費節減努力によりトータルで減

高校耐震化工事の様な大型施設設備投資が今年はありませんでしたので大幅減となりました。

前年度は前々年度に比べ未払い退職金が少なかったので大幅減。

(2) 消費収支計算書

消費収支計算について資金収支計算と重複する部分は省略し、資金収支計算で説明していない部分の説明を加えてその内容をご報告いたします。

(消費収入の部)

(単位：千円)

科 目	24 年度決算	25 年度決算	差 異
学生生徒等納付金	1,814,958	1,780,384	△34,574
手数料	27,413	28,061	648
寄付金	15,267	20,827	5,560
補助金	792,587	676,802	△115,785
資産運用収入	10,463	12,608	2,145
資産売却差額	0	0	0
事業収入	29,543	39,853	10,310
雑収入	52,179	112,311	60,132
帰属収入合計	2,742,410	2,670,846	△71,564
基本金組入額合計	△253,885	△128,092	125,793
消費収入の部合計	2,488,525	2,542,754	54,229

昨年受入の高校校舎耐震化工事に係る補助金がなくなり大幅減。

短大健康福祉学科で受入れの職業訓練生の数が増え受託事業収入が大きく増加しました。

昨年度比退職者増で退職金財団よりの交付金が増加となりました。

(消費支出の部)

(単位：千円)

科 目	24年度決算	25年度決算	差 異
人件費	1,632,596	1,735,046	102,450
(退職給与引当金繰入額)	(50,368)	(66,658)	(16,290)
(退職給与引当金特別繰入額)	(0)	(0)	(0)
教育研究経費	749,156	780,463	31,307
(うち奨学費)	(193,953)	(166,000)	(△27,953)
(うち減価償却費)	(229,399)	(254,891)	(25,492)
管理経費	239,460	223,114	△16,346
(うち減価償却費)	(31,325)	(30,147)	(△1,178)
借入金等利息	5,400	4,530	△870
資産処分差額	1,707	6,826	5,119
徴収不能引当金繰入額	461	380	△81
徴収不能額	501	0	△501
消費支出の部合計	2,629,281	2,750,359	121,078

短大期末手当の一部復活で教員人件費 43 百万円増、職員人件費 17 百万円減、期末退職者増で退職金関係支出 76 百万円増

高校耐震化工事に伴う減価償却費 25 百万円増は奨学費 28 百万円で吸収も NWF の外壁修繕で修繕費 30 百万円増

補助金返還金 10 百万円減の他経費節減が奏功し大幅減。

リース会計処理変更による車輛処分減価、図書の除却があり 5 百万円増

(3) 貸借対照表

貸借対照表について、前年度末からの増減の主なものの説明を付してご説明いたします。

科 目	24年度決算	25年度決算	差 異
資 産			
固定資産	13,470,336	13,302,352	△167,984
うち有形固定資産	11,383,888	11,165,924	△217,964
その他の固定資産	2,086,448	2,136,428	49,980
流動資産	1,771,884	1,794,449	22,565
合 計	15,242,220	15,096,801	△145,419

教育研究用機器備品が 32 百万円の増、図書が 2.5 百万円の増、その他の有形固定資産は、減価償却分簿価減少。

高校耐震化引当特定預金を 50 百万円 (第 2 号基本金組入計画に基づく)

科 目	24年度決算	25年度決算	差 異
負 債			
固定負債	957,810	817,577	△140,233
流動負債	801,261	875,587	74,326
計	1,759,071	1,693,164	△65,907
基 本 金	17,365,359	17,493,451	128,092
消費収支差額の部合計	△3,882,210	△4,089,814	△257,604
合 計	15,242,220	15,096,801	△145,419

長期借入金△152 百万、退職給与引当金 5 百万、長期未払金 7 百万。

今年度は期末退職者 (退職金は翌月払) が多かったため未払金が 93 百万増、授業料軽減借入金 (短期相当分) 33 百万減、預り金 14 百万増で合計 74 百万増加しました。

1号基本金 78 百万、2号基本金 50 百万の増加です。

(参考)

正 味 資 産	13,483,149	13,403,637	
---------	------------	------------	--

※ 正味資産＝資産－負債 (＝基本金＋消費収支差額)

減価償却額の累計額	6,229,547	6,469,460	
-----------	-----------	-----------	--

借入金の状況

当学園の借入金は下表のとおりです。22年度より愛知県私学振興事業財団より新規の授業料軽減借入をすることはなくなり、菊武ビジネス専門学校の授業料軽減借入金は今年度最後の償還を済ませましたが、菊華高校は、授業料軽減借入金として¥229,819,834、施設設備整備費借入金として¥35,109,000 合計¥264,928,834 の借入残を有しております。しかし、この授業料軽減借入金及び施設設備整備費借入金は、償還に要する財源を愛知県から授業料軽減借入金償還補助金及び施設設備整備費借入金償還補助金として全額補填を受けることになっていますので学園としての返済負担は発生しないものです。

(借入金明細表)

(単位：千円)

借入先	24年度末残高	25年度末残高	増減	摘要
日本私立学校振興・共済事業団	360,000	300,000	△60,000	キクタクスポーツヘルズ 取得資金他
愛知県私学振興事業財団	389,690	264,929	△124,761	愛知県より全額補填あり
合計	749,690	564,929	△184,761	

2. 学校債の状況

当学園は、学校債を発行いたしておりません。

3. 寄付金の状況

当学園に対する寄付金は24年度15,267千円でありましたが25年度は20,827千円となりました。現物寄付が1百万減、一般寄付は6.4百万増、特別寄付は0.2百万増加ですので、ほとんどが一般寄付の増加によるものです。合計としては、前年度より5.5百万円増加しました。

IV. 決算期後に生じた学校法人の状況に関する重要な事実

該当する事実はありません。

V. 対処すべき課題

「少子高齢社会にあつて年々厳しくなる学生・生徒・園児募集にどれだけ成果を挙げられるか？」言い換えれば「各部門が収入を安定的に確保し自立すること」が対処すべき最優先課題であることに変わりありません。特に大学・短大で入学者を確保することが喫緊の課題です。